

2020 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツ学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名	基礎柔道整復学・各論Ⅲ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時限	後期	教室名	
担 当 教 員	福士 暁也	実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
各関節の解剖学的構造を理解した後に、各関節の脱臼発生についてを学びます。						
《成績評価の方法と基準》						
期末試験評価:100%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
柔道整復学理論編(全国柔道整復学校協会編集) 柔道整復学実技編(全国柔道整復学校協会編集) パソコン(パワーポイント・スピーカー)、各種計測機器など 【参考図書】グレイ解剖学, 身体運動の機能解剖, 標準整形外科						
《授業外における学習方法》						
柔道整復理論の教科書をベースにして、実技編および解剖学の教科書も参考にしながら、人体の構造を理解すると同時に脱臼のメカニズムを学習する。また各種動画等による受傷場面の確認も有用である。次回講義までの課題がある場合もある。						
《履修に当たっての留意点》						
柔道整復師の業務範囲である脱臼の整復において発生頻度が高く、また臨床現場でも遭遇する機会の多い範囲です。解剖学的構造をしっかりと理解することから始め、整復から固定までを理解しましょう。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	前期講義履修部分を復習し、理解できている。	パソコン プロジェクター 柔道整復学学校協会編 柔道整復理論編第6版	履修した項目については、解剖学的な位置関係を含めて、必ず復習が必要となる。	
		各コマにおける授業予定	前期講義の復習			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	頭部・顔面の解剖学構造を理解する。	パソコン プロジェクター 柔道整復学学校協会編 柔道整復理論編第6版	履修した項目については、解剖学的な位置関係を含めて、必ず復習が必要となる。	
		各コマにおける授業予定	頭部・顔面の解剖学			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	頭部・顔面の骨折の病態を理解する。	パソコン プロジェクター 柔道整復学学校協会編 柔道整復理論編第6版	履修した項目については、解剖学的な位置関係を含めて、必ず復習が必要となる。	
		各コマにおける授業予定	頭部・顔面の骨折			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	頭部・顔面の骨折に対する整復及び処置方法を理解する。	パソコン プロジェクター 柔道整復学学校協会編 柔道整復理論編第6版	履修した項目については、解剖学的な位置関係を含めて、必ず復習が必要となる。	
		各コマにおける授業予定	頭部・顔面の骨折②と整復および処置			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	胸鎖関節・肩鎖関節の解剖学的基本構造を理解する。	パソコン プロジェクター 柔道整復学学校協会編 柔道整復理論編第6版	履修した項目については、解剖学的な位置関係を含めて、必ず復習が必要となる。	
		各コマにおける授業予定	胸鎖関節・肩鎖関節の基本的構造			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	発胸鎖関節・肩鎖関節脱臼の発生機序及び整復固定方法を理解する。	パソコン プロジェクター 柔道整復学学校協会編 柔道整復理論編第6版	履修した項目については、解剖学的な位置関係を含めて、必ず復習が必要となる。
		各コマにおける授業予定	胸鎖関節・肩鎖関節脱臼の発生機序および整復固定		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	肩関節の解剖学的基本構造を理解する。	パソコン プロジェクター 柔道整復学学校協会編 柔道整復理論編第6版	履修した項目については、解剖学的な位置関係を含めて、必ず復習が必要となる。
		各コマにおける授業予定	肩関節の基本的構造		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	肩関節脱臼の発生機序・メカニズムを理解する。	パソコン プロジェクター 柔道整復学学校協会編 柔道整復理論編第6版	履修した項目については、解剖学的な位置関係を含めて、必ず復習が必要となる。
		各コマにおける授業予定	肩関節脱臼の発生機序		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	肩関節脱臼の整復方法を理解する。	パソコン プロジェクター 柔道整復学学校協会編 柔道整復理論編第6版	履修した項目については、解剖学的な位置関係を含めて、必ず復習が必要となる。
		各コマにおける授業予定	肩関節脱臼の整復法		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	肩関節発生時の合併症を理解する。	パソコン プロジェクター 柔道整復学学校協会編 柔道整復理論編第6版	履修した項目については、解剖学的な位置関係を含めて、必ず復習が必要となる。
		各コマにおける授業予定	肩関節脱臼の合併症		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	肩関節脱臼の固定方法を理解する。	パソコン プロジェクター 柔道整復学学校協会編 柔道整復理論編第6版	履修した項目については、解剖学的な位置関係を含めて、必ず復習が必要となる。
		各コマにおける授業予定	肩関節脱臼の固定法		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	肘関節の解剖学的基本構造を理解する。	パソコン プロジェクター 柔道整復学学校協会編 柔道整復理論編第6版	履修した項目については、解剖学的な位置関係を含めて、必ず復習が必要となる。
		各コマにおける授業予定	肘関節脱臼の基本的構造		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	肘関節脱臼の発生機序を理解する。	パソコン プロジェクター 柔道整復学学校協会編 柔道整復理論編第6版	履修した項目については、解剖学的な位置関係を含めて、必ず復習が必要となる。
		各コマにおける授業予定	肘関節脱臼の発生機序		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	肩関節脱臼の固定方法と合併症を理解する。	パソコン プロジェクター 柔道整復学学校協会編 柔道整復理論編第6版	履修した項目については、解剖学的な位置関係を含めて、必ず復習が必要となる。
		各コマにおける授業予定	肘関節脱臼の固定法と合併症		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	後期講義のまとめを行い再復習し各脱臼を理解する。	パソコン プロジェクター 柔道整復学学校協会編 柔道整復理論編第6版	履修した項目については、解剖学的な位置関係を含めて、必ず復習が必要となる。
		各コマにおける授業予定	まとめ		